

旭日大綬章 受章

2009年11月5日



張 富士夫氏 (駒7)



森山 眞弓氏 (第三41南)

駒場松桜会会報

第86号

2010年4月1日発行

(財) 駒場松桜会
都立駒場高校同窓会

〒153-0044
目黒区大橋2-18-1
都立駒場高校内

TEL/FAX
03-3466-7579

携帯電話のカメラで撮るとホームページが開き、住所変更もできます。



お二方の受章を記念し、お慶びの想いを
お寄せいただきました。

受章にあたり

森山 眞弓

平成二十一年十一月五日に、旭日大綬章という立派な勲章を頂戴いたしました。

その情報が私に届きましたのは十月初めでしたが、予期せぬことで、何の準備もなく、服装のことが先ず問題でした。男性は燕尾服で、その奥様は大抵和服です。しかし、受章者本人が女性の場合は、勲章をつける都合があるのでローブモンタントという洋装の礼服が必要です。そんなものは持ってないのです、大わらわで調達いたしました。

当日そのローブモンタントを着て皇居に参りますと、一緒に同じ勲章をいただく人が十人余り次々と集まって来ます。その中にトヨタの張さんもいらっしやいました。私共は同じ松桜会の同窓生ということによく承知しており、「あら、まあご一緒ですね」と声をおかけいたしました。御即位二十年、御成婚



親授式

五十年の佳き年にご一緒に受章できまして、大変嬉しゅうございます。

もつとも私は駒場7回の張さんよりも十年位上で、戦時下の都立第三高女の六本木の北日ヶ窪の校舎を卒業したものです。

現職の国会議員は叙勲は頂かないという申し合わせがあり、私は七月に引退いたしましたので頂けることになりました。何れにしても、第三高女の生徒の時代にはこんなことは思いもかけないこと、昭和二十年の終戦と共に世の中が大きく変わり、女性も大学へ進学でき、行政官の一員になったり、政治にも参

略歴

- 1947年 津田塾専門学校外国語学科卒業
- 1950年 東京大学法学部法律学科卒業
- 労働省入省
- 1974年 労働省婦人少年局長
- 1980年 労働省退官、参議院議員
- 1984年 外務政務次官
- 1989年 環境庁長官
- 内閣官房長官(女性初)
- 1992年 文部大臣
- 1996年 衆議院議員
- 2001年 法務大臣
- 2007年 白鷗大学学長に就任

文武両道

張 富士夫

この度はからずも秋の叙勲を頂きました。その際森山眞弓先輩とご一緒ということで二重に名誉なことでした。今後は少しでも社会のため、人のためになるよう行動をしなければならぬと責任の重さを痛感しております。

ふり返りますと駒場高校の学生生活は私のこれまでの中でも

加でできるようになったことからこういう立場も頂けるようになりました。
現在の生徒さんたちも、これから長い一生の間には世の中が思いがけない方向に進むかも知れませんが、どんな世の中になっても駒場の生徒であったことを誇りに、自信を持って力強く前を向いて歩いてくださるよう願っております。

一番キラキラ輝いていた時だったと思います。同時に、色々なことをやり沢山のことを勉強したと思います。旧制の女学校とは知らずに入学し、倍の人数の女学生の中で「男らしさ」を磨くのは武道が一番と思い、学校では柔道部へ入り、練習の後、北沢警察署へ剣道を習いに行くという毎日でした。二年生の時に同級の山田君たちと剣道部を創りました。以後今日まで五十年以上駒場剣道部は発展し続けています。その他生徒会の副委員長にもなり、学校の行事は全て積極的に参加しました。一年生の時、校内柔道大会(団体)と剣道大会(個人)の両方に優勝したのはとても良い思い出です。思ったことはすぐ行動に移すというクセは駒場高校時代に自分に根づいたように思います。このことはその後の大学生、そして社会人になった時、大層役に立ちました。勿論失敗も多かったですが失敗から学ぶことも多かったと思います。ものはよく知っている、理屈も述べる、だけど身体は仲々動かないという人は割合いるものです。「良いと思つたらまず実行」という生き方を根づかせてくれた自由な校風、暖かく指導して下さいました先生方、友人たちに対して今も感謝しております。

略歴	
1960年	東京大学法学部卒業
1960年	トヨタ自動車工業株式会社入社
1988年	トヨタ自動車株式会社取締役就任
1993年	同社常務取締役就任
1998年	同社取締役社長就任
2005年	同社取締役会長就任
	現在に至る
2006年	財団法人日中経済協会会長
2000年	藍綬褒章受章

いないなア」と大変嬉しく感じました。「文武両道」とは学問とスポーツを両立させる意味ですが、私は「知識」と「実践」の両立というようにも受け取っています。そして知識を本当に実践できるためには、絶えざる訓練が必要ということも学びました。自分を訓練する第一歩は、まずやってみるといふ気持だと思っています。

卒業に際し恩師の則行先生より「これからは経済と歴史を勉強しろ」と言われました。経済については目下実態に首までつかっているような状態ですが、歴史については「歴史から何を学び取るか」という問に対してまだ回答が見つかりません。これは歳をとるほど難しいと感じています。先生は随分早く亡くなられました。ご存命なら一番に叙勲の報告に伺い、同時に歴史について話をお聞きしたかったです。

香淳皇后様直筆の掛軸



初見校長のご尽力で、香淳皇后様直筆のお雛様の掛軸が見つかり、3月21日(日)の駒場高校茶道部の卒業お茶会の際に床の間に飾ってご披露させていただきました。

駒場松桜会 地方支部から

宮城支部

平成21年12月6日、師走ゆえ忙しい方々も多いこととて、日曜日の開催となった。

今回は仙台近郊の温泉への一泊旅行だったので、今回は1/3の予算で市内のエクセル日東急で挙行！男性陣でさえ、女性より五百円増しの三千五百円という特別参会費で熱々の飲茶点心中心の食べ放題、飲み放題!!貸切り室なので、好き勝手な料飲注文や取り放題のなか、喋りまくり、大いに盛り上がった。多種多彩なスイーツ・飲料類が一段と効果的で、より楽しい話に花を咲かせる結果となり、時の

経つのを忘れさせた明るいサロンを現出させた。

府立第三時代から駒場20期までの老熟年中心であったが、話の内容や元気さは青壮年に負けず劣らず、明るく楽しく美しく生きるチエは、次回には参加して来るであろう駒20・60台迄の公私に渡り多忙な方々にとっても、必ずや大いに役立つはずの話材が豊富で、さすがダテに人生経験を積んではいけないナと実感した集いであった。

今回は諸々の事情で不参加となった多くの同窓会員から頂いた近況報告に接して、今後の集会への着実な参加人員増が期待できそうな時間を頂けたことを、改めて参加者ご一同様に感謝する次第である。

なお、出席者は第三4名、駒場6名の10名でした。
堀内 章(旧姓 長谷川)(駒15)

新潟の彫刻展を訪ねて

工藤(日高)頼子さん(駒9)と夫君の健氏(多摩大学名誉教授)の彫刻展が、お二人が16年前にアトリエを構えられた南魚沼市の今泉博物館で開催された。秋晴れの一日、美しく紅葉に彩られた越後の山並みと刈り入れの終わった田園が私達を迎えてくれた。

主会場には外光が柔らかく取り入れられ、お二人の作品が向かい合うように展示されていて、工藤氏の作品から流れてくるパツハの調べを日高さんの穏やかな表情の女性像が静かに耳にしているように感じられた。

日高さんの作品は、鳥の唄にも見られるように柔らかな線に暖かみを感じられ、通路に置かれた小品は外の景色と溶け合っていた。新妻 紀子(駒9)



『学童疎開船 対馬丸の悲劇』より

忘れない！二度と繰り返さない！

命ある限り 平和の大切さ 伝えたい



2009年4月
エジプトにて

マリア宮城・バートラフさん

2008年3月、駒場松桜会から刊行された記念誌『迎光寮』に寄せられた、金城靖子(駒16)さんの文中でこの書が紹介されたことにより、極限状況の中からの生還という奇跡のエピソードが知られることになった。

同誌の第四部「東京大空襲と私」の中では、空襲で焼失した直後の麻布の校舎や迎光寮などの思い出など、学生時代の一時期を過ごした、都立第三高等女学校の印象深かったことがうかがえる。

その後国際的に活躍され、アメリカ人ジャーナリスト・報道写真作家と結婚、現在はアメリカ・カリフォルニア州在住。世界中で取材し日本滞在中も多忙を極める。戦争真只中の相次ぐ苦難を乗り越えていらした不撓不屈の信念を、この著書の記述を中心にまとめた。

プロフィール

1949年 安波中等学校教官補
1953年 東京国際ビジネスセンタースクール修了
1955～59年 米国貿易会社勤務、夜学に通う
1960年～ 西ドイツノードプレス社の極東特務記者
1968年～ 米国カリフォルニア州在住
1970年～ アジア各国の民芸品店開店、その後、パシフィックフードセンター、レストラン、乗馬専用牧場経営者。コピーライター
対馬丸について語り続け、慰霊の事業に尽力



2009年8月 対馬丸慰霊祭

◇満ち足りた少女時代
沖縄県最北端の国頭村に生まれ、大家族の中で家畜の世話など役割分担をこなしながら、協力のもとですべての物事が仕上がっていくことを学ぶ、幸せに満ちた恵まれた少女時代、約13年間を過ごしました。県産展示会を目指す民芸品や、織物の技能などを、祖母や母から教え込まれ、今もなお生活に潤いを与え、生きる糧になっています。

◇魚雷の命中
22日午後10時20分、第3発目の魚雷も命中、激しい浸水と、鉄の破片が飛び散り、私は頭部や顔、顔から鮮血が流れ、一歩先も見えなくなりました。祖母たちの筏を海中に投げ、多くの人々の悲惨な運命を目にしながら、幼い弟妹たちを探し続けま

◇運命の船に乗り込んで
こんな片田舎の住民も疎開しなければならぬ事態に不安で、不思議でした。母や親族は絶対反対にもかかわらず、村の区長と校長先生方は命令だと説得し、半ば強制的に昭和19年8月19日の晩出発させられました。別れてきた母や幼い弟妹を思っていると、同行の弟妹や従妹は、本土への期待で嬉々としていました。周囲の学童たちも修学旅行のように喜び勇んでいました。注意事項の、「最近太平洋の広範囲に敵の潜水艦が出没し、襲撃の恐れがあること。」など、不安が募りました。

◇苦難の漂流と奇跡の生還
水面に顔を出して浮いているだけで精一杯でしたが、不思議にも触った木製の筏にすがりついて漂い、飢えと寒さで心身が凍りつき、夜光虫が所かまわず刺して、ひどい痛みを残していくのでした。頭や顔の傷も塩水の消毒によるのか出血も止まっていた。鮫や鱈に襲われ、多くの人がその餌食になりました。4日間の漂流から、駆逐艦に救助されて3日目鹿児島湾に入港、旅館に移動して外部とは遮断されていました。一カ月あまりの収容生活でほぼ回復し、東京の父と兄を訪ねて出発することになりました。

◇東京の女学校生活から沖縄へ
父と兄に再会して3日後、都立第三高等女学校2年東組に転入しました。目黒区東町に移住して3カ月位経った昭和20年3月10日、我が家は空襲で全焼し、またも惨状に遭遇したのでした。

◇苦難の漂流と奇跡の生還
水面に顔を出して浮いているだけで精一杯でしたが、不思議にも触った木製の筏にすがりついて漂い、飢えと寒さで心身が凍りつき、夜光虫が所かまわず刺して、ひどい痛みを残していくのでした。頭や顔の傷も塩水の消毒によるのか出血も止まっていた。鮫や鱈に襲われ、多くの人がその餌食になりました。4日間の漂流から、駆逐艦に救助されて3日目鹿児島湾に入港、旅館に移動して外部とは遮断されていました。一カ月あまりの収容生活でほぼ回復し、東京の父と兄を訪ねて出発することになりました。

◇東京の女学校生活から沖縄へ
父と兄に再会して3日後、都立第三高等女学校2年東組に転入しました。目黒区東町に移住して3カ月位経った昭和20年3月10日、我が家は空襲で全焼し、またも惨状に遭遇したのでした。

◇苦難の漂流と奇跡の生還
水面に顔を出して浮いているだけで精一杯でしたが、不思議にも触った木製の筏にすがりついて漂い、飢えと寒さで心身が凍りつき、夜光虫が所かまわず刺して、ひどい痛みを残していくのでした。頭や顔の傷も塩水の消毒によるのか出血も止まっていた。鮫や鱈に襲われ、多くの人がその餌食になりました。4日間の漂流から、駆逐艦に救助されて3日目鹿児島湾に入港、旅館に移動して外部とは遮断されていました。一カ月あまりの収容生活でほぼ回復し、東京の父と兄を訪ねて出発することになりました。

◇苦難の漂流と奇跡の生還
水面に顔を出して浮いているだけで精一杯でしたが、不思議にも触った木製の筏にすがりついて漂い、飢えと寒さで心身が凍りつき、夜光虫が所かまわず刺して、ひどい痛みを残していくのでした。頭や顔の傷も塩水の消毒によるのか出血も止まっていた。鮫や鱈に襲われ、多くの人がその餌食になりました。4日間の漂流から、駆逐艦に救助されて3日目鹿児島湾に入港、旅館に移動して外部とは遮断されていました。一カ月あまりの収容生活でほぼ回復し、東京の父と兄を訪ねて出発することになりました。

◇苦難の漂流と奇跡の生還
水面に顔を出して浮いているだけで精一杯でしたが、不思議にも触った木製の筏にすがりついて漂い、飢えと寒さで心身が凍りつき、夜光虫が所かまわず刺して、ひどい痛みを残していくのでした。頭や顔の傷も塩水の消毒によるのか出血も止まっていた。鮫や鱈に襲われ、多くの人がその餌食になりました。4日間の漂流から、駆逐艦に救助されて3日目鹿児島湾に入港、旅館に移動して外部とは遮断されていました。一カ月あまりの収容生活でほぼ回復し、東京の父と兄を訪ねて出発することになりました。

対馬丸事件とは

大正時代に英国で造船されたといわれる老船で、当時は貨物専用であったらしく、軍用で上海への任務を終えて、那覇軍港に入港。昭和19年8月21日、敗色濃厚で危険の迫る沖縄から本土(九州)に向けて、主に集団疎開のため、「暁空丸」「和浦丸」とともに、砲艦「宇治」、駆逐艦「蓮」と合計5隻の船団で、那覇から出港した。翌22日夜10時すぎ、疎開学童、引率教員、一般疎開者、兵員ら1,788人を乗せた学童疎開船対馬丸は、鹿児島県石島の北西10kmの地点を航行中、アメリカ潜水艦「ポーフィン」の魚雷攻撃を受けてほとんど沈没した。学童826人を含む1,508人が犠牲になり、救助された人々には「箝口令(かんこうれい)」がしかかれ、対馬丸が撃沈された事実を話すことが禁じられた。犠牲者や生存者に関する詳細な調査も行われず、沖縄に残された家族に正しい情報が伝わることはなかった。救助されたのは155人、そのうち学童はわずか59人だった。

立大森工場に学徒挺身隊として行き、軍艦に取り付けるエンジンの部品の製造に、必死で働きました。

その後、疎開で青梅市の都立第九高等女学校に編入学しました。ここでも学徒挺身隊として作業をする軍需工場と飛行場にはひっきりなしの空襲で、いたい何回地獄をさまようのかと思いつつも、明るく勤務して精一杯努力し、体力もないのにがんばった、あのエネルギーが不思議でなりません。

終戦2カ月前になって、再び都立第三高等女学校に転校しましたが、昭和21年11月故郷の終戦後の状態が案じられて、引き揚げることになったのでした。

日時：平成22年6月26日(土)
 受付：午後1時～
 同窓の集い：午後1時30分～4時
 会費：5,000円(未成年2,000円)

新入会員は無料です

当日受付でもお支払いいただけますが、混雑が予想されますので、会報に同封の振込用紙にてお振込みいただけますと助かります。
 なお、先生はご招待になります。

駒場から新たな一歩を踏み出し、20年が経ちました。
 社会人になった頃から、駒場時代の友人とは年賀状を数人と交わす位で疎遠になっていました。
 今回、松桜会の方から連絡をいただき、久しぶりに駒場時代を思い返しています。
 私たちは「38歳」という、卒業当時では想像もできなかった年齢になりましたね。仕事に夢中の方、子育てに忙しい方、人生に迷っている方、いろいろでしょう。この機会にそれぞれの20年を持ち寄り、集まりませんか？なつかしい方に会い、思い出話や今だからできる話に花が咲いたら楽しいだろうなあ！と思っています。



卒業後20年の
 皆さんへ
 小林 香苗子(駒42)

会場：グランドアーク半蔵門
 4階大宴会場「富士」

東京都千代田区隼町1-1 Tel 03-3288-0111



- 地下鉄
 半蔵門線「半蔵門駅」1番出口より徒歩2分
 有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩7分
 - 都バス
 JR四谷駅麹町口を出て、道路を挟み上智大学が見えるところにバス停あり。
 「晴海埠頭」または「三宅坂」行きに乗車。
 バス停「半蔵門」で下車。
 約6m戻り、信号を渡り直進。突き当たりを左折。
 都バスの時刻
- | 都バスの時刻 | 晴海埠頭行き | 三宅坂行き |
|-----------|----------------|----------------|
| 四谷駅前(土曜日) | 12:22
13:25 | 12:43
13:42 |

11月21日(土)に土屋美寧子さん(駒20)と和波孝禧さんご夫妻をお迎えして開催しました。

1部はベートーヴェンの明るく活気のある「ソナタ第8番」に始まり、シューベルトの大作「幻想曲」、2部はピアノソロによるシューマンの5つの小曲からなる「暁の歌」、クライスラーのヴァイオリンソロの「レチタティーヴォとスケルツォ・カプリス」に続きピアノ伴奏付きの4曲。アンコールにも2曲応えていただきました。

演奏の素晴らしさに加え、曲の合間での楽しいお話や、お二人のご夫婦ならではの何とも温かな雰囲気魅了されたひと時でした。

松桜会コンサート
 2009年度



次回のお知らせ
 弦楽合奏団「アカンサス」
 2010年11月28日(日)午後2時より



次回は、11月28日(日)14時から東京オペラシティリサイタルホールで、20人からなる弦楽合奏団「アカンサス」の演奏会を予定しています。曲目はヴィヴァルディ「四季」他の予定です。どうぞご期待下さい。



第4回 駒場松桜会同窓の集い

新会場で新たな一歩を踏み出そう!

「駒場松桜会同窓の集い」は幹事学年の献身的な働きと会員の皆様のご支援で大きな成果を上げながら開催して参りました。今年は再出発4年目。駒場高校に隣接する、親しまれた「こまばエミナース」が閉館されるため、新しい会場での開催となります。

昨年は参加者も減少しました。こうした課題を乗り越えて、新たな発展を目指しましょう。

幹事学年は駒 22、32、42 期です。ご協力、ご支援を!

昨年同窓の集いに初めて参加させて頂きました。盛会でした。卒業後40年以上経っていますので、だいたい気が引けましたが、友人を誘って参加しました。堅苦しいこともありませんでしたし、楽しく過ごせました。

同窓の集いは懐旧だけの集いではありません。100年以上続く駒場という縁で結ばれた人的ネットワークの集い、言換れば大人脈集いです。ですから社会に出た若い人にもご年配の方にも大切なきっかけを与えてくれます。ひよっとしたら娘の伴侶が見つかるかもしれませんし、仕事に役立つ縁があるかもしれません。何卒皆様方お誘い合わせの上多数ご参加お願いします。



同窓の集いへのご参加を
金子 和敏(駒22)

2010年は、私たち駒32が卒業して30年になります。

私たちが在校中に食べていたあんぱたのサカエヤはもうありません。中華飯店の小紅楼も東大楼も、そば屋の山口屋もありません。そして今度は駒場エミナースがなくなっています。

ですが、私たちが駒場の丘に残してきた足跡は、心の奥の玉手箱としていつまでもなくなることはありません。その玉手箱のふたが最近少し重くなってきたかな...大勢で力を合わせて、この重たくなつたふたを開けてみましょうよ!箱の中の宝物たちはまだキラキラしていますよ!

グランドアーク半蔵門に大きな光の束となって集まらしましょうよ!(あ、ちなみに喫茶イーグルは健在です)



卒業30年目の年に
安藤 由布樹(駒32)

第11回コチロン合宿の報告

恒例になった秋のコチロン合宿は21年10月6~7日で、参加者は事務局員3名を含め28(第三4、駒場24)名。宿舎の国立女性教育会館は武蔵野の大自然の中にあり、そこでのダンス合宿は心身共にリフレッシュできる環境でした。

夜の会食後のミーティングでは後輩は先輩方の母校を懐かしみ思い出を大切に語る姿に感銘を受け、先輩方は後輩のコチロン継承を模索する態度に思いを託すなど、賑やかに話がはずみ、それぞれが縦のつながりで得たものをしっかり心に刻んだ合宿でした。

中島 和子(駒9)



●コチロン合宿のお知らせ

日時 平成22年10月5日(火)、6日(水)
場所 国立女性教育会館(0493-62-6723)
*詳細は次号でお知らせします

●コチロンを踊る会

会場 生徒ホール(変更の場合は掲示します)
日時 4、5、6、7月
毎月第3火曜、月1回土曜日 午後2時~3時半

都 駒 祭 報告

平成21年9月12日(土)・13日(日)

お休み処(305教室)にはリウ・ミセキ氏(駒16)のポスター展示と講演があり、2日間で680名の来場者がありました。仰光寮では篆刻講座の受講生の作品を展示し、約300名の来場者でした。恒例になったコチロンのデモンストレーションも五大陸前の広場で行われ、24名の優雅なダンスに駒場の現役の生徒たちからも声援がとんでいました。



せんせ

第5回



百歳を迎えられた藤井喜代先生

昨秋、八ヶ岳高原ロッジで、お教え頂いた私達は幸せ者であつた。

名古屋から長女あい子さんの車で来られた藤井(高桑)喜代先生、東京から馳せ参じた第三の教え子で九十歳の三人、そこに第三時代からの親友で一昨年暮れに百二歳で世を去られた讚井(和田)光子先生の長女でフルーティストの若菜さんも加わって、先生の百歳のお誕生日を祝った。お孫様で駒口の祐輔さんがこのロッジのスタッフのお一人で、この日のために様々な心遣いをして下さったのである。

先生が第三高女に在職なさつたのは五年そこそこであつたが、計り知れないインパクトを残された。女子英学塾の本科、高等科を優秀な成績で卒業され、YWCA活動に打ち込み、卒業後、教寄屋橋の朝日新聞社講堂で、同窓会主催の英語劇「お気に召すまま」にも一役も二役

も買われたとか。

後になって耳にしたことだが、当時の府立第三の広瀬雄校長は各学校から選り抜きの卒業生を集められる方針であつた由。素晴らしい先生に

小林 和子(第三33南)

略歴
1931年 女子英学塾(現津田塾大学) 本科卒業
1933年 同 高等科卒業
1934年 東京府立第三高女着任 英語科担当
1939年 結婚のため退職
現在 名古屋市昭和区在住



駒62・4 桜木 優帆



駒場高校に入学して三年。濃密な日々は、今思えば一瞬の事のようにした。

私の水泳部での日々は、鬼のような指導者の方々のもと繰り広げられました。精神的なプレッシャーだけでなく、泳ぎ込みや陸でのトレーニングなどで肉体的にもかなりキツイものでした。さらに、勉強も忘れてはいけないもので、何度か文武両道、という言葉に苦しめられたか、数えきれない程でした。しかし、励まし競い合う仲間が存在がこのような状況でもモチベーションを高めてくれました。人生でこんなにも仲間の存在が大きかったのは初めてでした。

駒場での経験は貴重なものであり、これから訪れる壁を乗り越えるのに役立たいと思います。先輩方に負けないように、これからも頑張りたいと思います。

駒62・7 大坊 真未



駒場高校での三年間はまさに「光陰矢の如し」。気付けば初めは急に思われた駒場へ続く坂を何百回と往復し、12回の季節の

変調をこの駒場高校で迎えていました。日々の学校生活の中では密度の濃い授業を通して多くの知識や体力を身につけられた他、多くの人とのつながりを築くことができたと思います。部活動

においては部長としての責任感やリーダーシップを培い、先輩や後輩との絆の大切さを知り、学級生活では得られない自己成長を感じました。

独特の「ホーム」という呼び方の通り、三年生として迎えた都駒祭では家族のようなチームワークでインフルエンザという障壁を乗り越え、見事に劇を成功させることができました。このことは私にとって大切な思い出のページです。

長いようで短かった三年間の中で得た友人達や今まで支えて下さった先生方、そして多くの思い出はかけがえのない宝となりました。

駒62・保 風間 光



憧れだった駒場高校保健体育科に入学して三年。初めて駒場の名前が入った物を身につけ、緊張しながらもどこか自慢げに外を歩いたあの頃を、今とても懐かしく思います。

駒場での生活は毎日がとても楽しく、充実していました。部活動では日々の練習の中で、一人一人が自分の役割を考え、チームのために努力することの大切さや、勝ち負けではなく、そこに至るまでの過程が最も重要なのだということを感じました。また辛いこと、楽しいことを共に過ごしてきた大切な仲間を得ることができました。

保健体育科での生活も、三回の実習、実技発表会で毎回とても多くのことを学ぶことができました。中には辛いこともありましたが、毎回保健体育科の仲間間で支え合い、乗り越えてきました。個人的で楽しい仲間に出会えたことは私の一生の宝です。

会報85号に掲載の「お話を聴く会」の講師、小山清男先生が急逝

小山先生の訃報に接し大変驚きました。「クメールの微笑と不機嫌な女神たち」と題して先生のお話を聴く会を10月に予定し、その打合せのために、6月には駒場までお元気に足をお運びくださいました。でもその時に92歳故この先何が起きるか、と笑っておっしゃいました。まさかそれが現実になるうとは。哀しみと無念さでいっぱいです。

小山先生は駒5回生入学と同時に美術教諭として駒場に来られ、5年後には東京芸大へ赴任されました。駒5の同期会には欠かさずご参加くださり、駒5の文集には2回とも素晴らしい文章をお寄せいただきました。

2009年4月の駒5の会ではミヤンマーの仏像のお話をしていたいただきました。そのお話はデッサンやスライドを交えてのクメール・アンコールワットの仏像の骨格を図学的に解析する非常に興味深いものでした。ぜひ続編を、と先生にお願いしましたら快くお引受け下さり楽しみにしていました。先生もこの企画を喜んでくださっておられたとのことでした。

先生のご冥福を心よりお祈りいたします。原田 慶子(駒5)

2月6日 芸大キャッスル食堂にて 徳ぶ会開催
11月 瑞宝小綬章を受章

◆同期会報告◆
戦時下入学学年の最後の学年会

第三43・44・45回

昭和17年度入学の私たちは、2009年で80歳を迎え、今回を最後の学年会とし、10月22日に原宿駅前の南国酒家で開催、90名の参加を得ました。

1、2年時は戦争の気配色濃く、府立が都立になりセーラー服が国民服に、その後3年時に組替えがあり、この年に学徒動員が実施され、学校や工場での勤労奉仕、疎開、宿直が始まり、4年時には校舎が焼失、そして終戦。毎日焼け跡の片付け、4年で卒業の人、六本木から現在地へ校舎移転、5年で卒業する人など、考えると青春は激動の時代でした。

当日は天候にも恵まれ、上遠恵子さんに「アンチ・エイジング」のお話と乾杯の音頭で、「油少なめ、薄味、量より質」の会食を始めました。サブライズとして「17名編成のマンドリンの生演奏」を聞き、その伴奏で「希望のささやき」を合唱し、さらに幹事が集めた景品の「くじ引」を楽しみ、その後歓談のひとときで盛り上がりました。

終わりに近く、名古屋から参加された島田星子さんの指揮で旧校歌を斉唱、記念撮影のあと、閉会しました。

第三44東 佐藤ゆりこ

名古屋支部会の報告

2009年10月29日午後「ホテルアンシア」にて参加者14名のささやかな昼食会を開催しました。藤井先生101歳のお祝い・合計160歳のピアノ連弾などの企画を入れました。

駒30同期会

09年12月26日(土)渋谷の某居酒屋さんで65名の参加により、盛大に第4回同期会が開催されました。08年6月の【同窓の集い】で幹事学年となった事を契機に、6・12月の年2回の同期会が恒例となりつつあります。

この間に1年次・2年次のクラス会も多数開催されて、当初80名程の連絡網も200名を突破し、同期の輪は日に日に広がっています。

高校時代からの変わらぬ、また今回からの新たな、「純粋な友情」を大事にして行きながら、これから60回は開催しよう!と皆、元氣溼刺な50歳であります。

駒30 上中優



◆同期会のお知らせ◆

紫陽花会(駒14)

初めの方、大歓迎。
日時 6月26日(土) 12時から
場所 楽園菜館
目黒区鷹番1-2-6

連絡先 安中みな(2ホーム)
03-3793-2271
03-3710-2877

駒15同期会

「気分は夏休み」

日時 7月24日(土)
午後2時から
茶話会 大橋図書館内 和室予定
2次会 東大駒場キャンパス内
会費 計5千円程度
幹事 山内(1ホーム)
080-11009-7844

駒24同期会

日時 10月16日(土)
会場 ハイアットリージェンシー 東京(旧センチュリーハイアット)
連絡先 長岡寿昭(8ホーム)
03-3709-0324

駒26同期会

日時 11月6日(土)
会場 品川プリンスホテル
連絡先 高島弘子(8ホーム)
03-3994-8373

駒29同期会

日時 5月15日(土)
午後1時~7時
会場 三茶しゃれなードホール (田園都市線三軒茶屋駅下車)
連絡先 長谷川徹(5ホーム)
03-5486-0328
荒川 衛(3ホーム)
045-481-6653

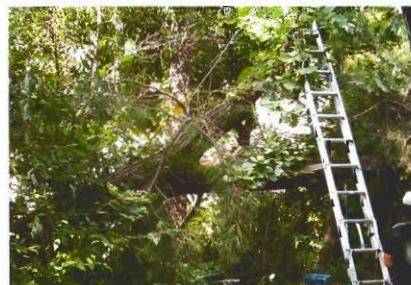
掲 示 板

●グループCOMコンサート
～シューマン・ショパン生誕200年～
日時 5月23日(日) 午後2時開演
会場 アーティストサロン "Dolce" (新宿)
お問い合わせ：
小石恵子(駒29) 03-3463-3560

●第27回「合唱曲集を歌う会」
日時 5月29日(土) 午後2時~4時30分
会場 日本福音ルーテル大岡山教会
〒145-0063 大田区南千束3-16-5
会費 1000円
係り 駒4 新井(03-5701-0194)
駒4 鈴木(03-3414-9723)

剣道部OB、OGの皆様へ
駒剣総会を9月11日に渋谷で開催前回は負けぬ多数の参加をお待ちします。
世話人：岸本雅晴(駒5)
問合せ：kmasaha@gmail.com

◆同期会やクラブのOB会の案内・開催報告をお寄せ下さい。次号発行日の2か月前までにご連絡頂ければ掲載できます。報告は写真もぜひお送り下さい。(添付ファイル可)



21年10月7日の台風で仰光寮庭の松の木が2本倒れましたが、幸いにも仰光寮に影響はありませんでした。

計 報
小山 清男 先生 (平成21年9月10日)
上林 勇 先生 (平成22年1月2日)
林 三郎 先生 (平成22年1月4日)
根本 裕夫 先生 (平成22年3月14日)

寄付者芳名

柴田 尚子 (高等科26)
笠原 敏子 (故) (駒2)
田嶋 文恵 (故) (駒21)

お詫びと訂正

会報85号の役員一覧に顧問の方々の記載漏れがございました。大変失礼いたしました。

顧問 上田 光子 第三26
小杉 明子 第三33
中江 千恵 駒4

会報85号8頁の東館和室畳替の記事の佐原學氏は駒13です。

松桜会講座のお知らせ(平成22年度上期)

4/15 締切

対象者：駒場松桜会員・母校教職員・PTA会員

申込方法：往復はがきに ①講座名 ②郵便番号・住所 ③電話番号 ④氏名

⑤会員一卒業年度 教職員一所属 PTA会員一お子様の氏名・学年・ホーム を記入してください。

☆返信はがきには宛先の住所・氏名を記入してください。1つの講座につき、1枚でお申込みください。

申込先：〒153-0044 目黒区大橋 2-18-1 都立駒場高校内 駒場松桜会事務局

受講料：A、B講座は第1回の受付時に、C講座は各回に観劇料を記名した封筒に入れてお支払いください。

A 講座

山本常朝『葉隠』を読む

講師

谷口眞子(駒30)

早稲田大学
非常勤講師

『葉隠』は、前回扱った新渡戸稲造『武士道』とならび、もっとも有名な武士道論書です。山本常朝は1659年に生まれ、1719年に死亡した鍋島藩士でした。彼の履歴や当時の佐賀藩の状況を考慮しながら、常朝の没我的忠誠論の意味を考察します。

定員：40名
受講料：2,000円
会場：東館 和室

7/2(金)
7/9(金)
7/16(金)
7/23(金)
10:40~12:00

B 講座

NEW! いきいきフィットネス体操

講師

上田泰子(駒32)

OKJエアロビック
ファミリー 代表

フィットネスとは、生き活きと生活できることを指します。世界中の音楽(ヨーロッパ、北米・南米、アジア…もちろん日本も!)にのって楽しく心と身体を動かしましょう。いすを使ったり、ボールや内輪を利用して体操しましょう!どなたにもご参加いただける内容です。キーワードは、笑顔!元気!仲間!

定員：30名
受講料：2,500円
会場：生徒ホール
*運動しやすい服装・シューズ・タオルなど

5/15(土)
5/29(土)
6/5(土)
7/3(土)
7/10(土)
15:00~16:30

C 講座

NEW! 文楽・歌舞伎鑑賞教室

企画

講座部会

国立劇場スタッフによる、人形や演目の初心者向け解説の後鑑賞します。
文楽…祇園祭礼信仰記、碁太平記白石噺、連獅子
歌舞伎…鳴神(片岡孝太郎、片岡愛之助ほか)
鑑賞後国立劇場制作歌舞伎映画(オプション・30分)もあります。

定員：30名
観劇料：
文楽 5,850円
(1等席 6,500円のところ)
歌舞伎 3,200円
(1等席 3,800円のところ)
会場：国立劇場

5/21(金)文楽
10:00~15:25
6/8(火)歌舞伎
10:30~13:00

*松桜会講座では、講師を募集しています。講座の趣旨に適任の方々のご推挙を、事務局までお寄せください。

受講生の声 街歩きを楽しむ~上野界限

十月から一月にかけて実施された講座に、初めて参加しました。かねてより訪れてみたかったところへ案内していただけるのですから、こんな機会は二度とないと思ったのです。お仲間のほとんどは先輩がたです。みなさん健脚で、おしゃべりしながらもトットと歩きます。そのあいまに在校当時のことや先生方のことなどあれこれ話してくださいました。同窓のかたがたと打ちとけておしゃべりしながらの楽しい遠足になりました。よく晴れて暖かな師走の一日、樋口一葉の『たけくらべ』の舞台となった龍泉寺町を訪ねました。美登利や信如が歩いていったのかと思ってみても、往時をしのぶよりは当然のことにもないのですが、一葉が九か月の短い期間、駄菓子屋をいとなんだ吉原近くのこの町に「台東区立一葉記念館」がありました。折から特別展「半井桃水と樋口一葉」が開催中で、美しい筆跡でしたためられた桃水宛の手紙が展示されています。よく読めないままに眺めていると、一葉が師とも兄とも慕った桃水への秘めた思いが身にしみ感じて、百年以上が過ぎたいまでもその切なさに胸ふたがる思いがするのです。

この講座を企画し入念な資料を作って案内して下さった役員のみなさまがたのお蔭で、ビルの建ち並ぶ東京の街並のなかから明治のひとびとの生きたあかしを訪ね歩き、充実した日を過ごすことができました。

(駒22 田嶋 眞知子)

第一回で訪れた旧岩崎邸の設計者ジョサイア・コンドル氏は、明治時代、日本で初めての本格的な西欧式建築教育をするため、日本政府に招聘され英国より来日しました。その教育は決して西洋を押し付けるのではなく、東洋のよさも存分に取り入れた内容でした。自身の妻は日本人であり、生け花、茶道なども好んで嗜んだそうです。ガイドさんの流暢な説明を耳にしなから、邸宅、庭園をめぐり、西洋と東洋の見事な融合に感動しました。

第二回目、東京藝大訪問当日は、天皇在位二十周年を祝う日でした。日の丸が掲揚された校門をくぐり、奏楽堂へ。モーニングコンサートは、ベートーヴェン、ピアノ協奏曲第五番「皇帝」。オーケストラとともに、堂々と迫力ある藝大生の美しいピアノ演奏は圧巻でした。

第三回、台東区立一葉記念館では、明治の利発な少女であった一葉の二十四年の人生と、才能溢れる作品に触れることができました。その後、小説「たけくらべ」に描かれている龍泉界限の町並みを、一葉が荒物駄菓子店で生計を立てていた当時に思いを馳せながら、散策しました。

いずれの日も好天に恵まれ、皆さんの心がけのよいことに感謝。また毎回充実した資料を準備して下さり、そして安全に配慮しながらの案内に感謝します。講座に初めての参加でしたが、第三・駒場同窓生という心安さに、姉妹のようにお喋りをしながらの街歩きは、心地よいひとときでした。

(駒21 久世 正江)